

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	ひたちなか市			代表者名	大谷 明
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	デジタル推進課	連絡先電話番号	029-273-0111
担当者役職	主任	担当者氏名	鈴木 秀明	連絡先E-mail	
住所	312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名(予定)	DX推進に係る意識醸成プロジェクト
概要	DXを推進するために、各部署の管理職と実務担当職員向けの研修を行い庁内の機運醸成を図る。		
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
対応日・時間	有	163	令和6年11月8日	講演	実地
		派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻
		令和6年10月11日	講演(実地)	9時30分	15時30分
				活動時間(分)	120
				活動時間(分)	240
2-2.	会場名	ひたちなか市役所	最寄駅	同上	
	派遣場所	所在地	同上	最寄駅からの交通手段	同上

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。



アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	事前打合せから丁寧にヒアリングしていただき、こちらの要望に沿った職員の意識改革に繋がる研修を実施していただいた。管理職向け、デジタル化推進員向けの研修ともに参加者からの評判は非常に良く、庁内のDXに関する意識醸成につながったと感じるため。
アドバイザーへの要望事項	特になし。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	59人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	59	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)	本市ではひたちなか市デジタル化推進指針を令和4年度末に策定し、現在は毎年ローリングで策定するアクションプランに基づき取組みを進めている。計画を推進するためには、職員一人一人がDXの必要性を理解し、自身の業務を見直すことが重要である。令和5年度までは、各課に一人配置しているデジタル化推進員(若手～中堅職員)への研修等を行ってきたところであるが、今回各所属長へのヒアリングを行った結果、管理職の中においてもDXやデジタル化に関する意識に差があるため、推進に当たっては部署の決定権を持つ管理職へのアプローチも必要である。
支援により目指す成果(具体的に記入下さい)	「管理職(課長級職員)」及び各課に配置している「デジタル化推進員」に向けて、DXの意識醸成を目的とした研修会を開催し、本市のDXの推進に繋げる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	DXを推進するにあたり、各課に配置しているデジタル化推進員59名に対し、DXを推進するために必要な考え方などについて研修を実施していただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	本研修は各課等において実務に従事している職員がDX推進の必要性を理解し、普段の業務においてもそうした意識を持ってもらうことを目的として実施した。研修後に実施したアンケート結果からは、ほぼ全ての受講者から参考になり、気づきがあったとの意見をいただいた。個別の記述においては「DXの必要性や目的を認識できた」や「自分の部署にDX化できるものを積極的に考えていきたい」との回答もあり、受講者にとって多くの気づきを得られる研修だったと考えている。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 研修会の実施	<input type="checkbox"/> ⑦その他
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 実施後のアンケートにおいて、ほぼ全ての職員が「研修内容が参考になった」、「研修を受けて気づきがあった」と回答しており、職員の意識変革に繋がった。 また、自由記述においては「DXの必要性や目的を認識できた」や「自分の部署にDX化できるものを積極的に考えていきたい」などの回答があり、担当レベルでの意識醸成につながったものと考えている。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	<input type="checkbox"/> ④予算以外で、今後取組む事項がある 職員がDXを自分事として捉え、取組を推進していく組織づくり
4-4. 事業の最終的な目指す姿	人口減少が進み、行政リソースが縮小していく状況においても、AI・RPAの活用などのデジタル化・DXを推進し、業務効率化等を図ることで、職員がより付加価値のある業務に専念し、高い水準の行政サービス維持を目指す。 また、教育、医療、地域コミュニティなど様々な分野における施策を各部署がDXの視点を持って進めることで、市民一人ひとりがより豊かで充実した生活を送ることができるようなまちを目指す。	
5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
<input type="checkbox"/> 掲載許可	<input type="checkbox"/> ○掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
<p style="text-align: center; color: red;">なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください</p>		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		